

2012 春の  
事例検討会

# 自閉症児の心理臨床

～ 共同世界へといざなう繋ぎ手としてのセラピストの役割 ～

「自閉症児の心理臨床」を昨年に引き続き、久保信代先生をお迎えし、時間も充実させて開催いたします。今回の内容は、

- ◆ 自閉症の多様性 について
- ◆ セラピスト側からの自閉症児/者へのまなざし：
  - 共感的姿勢について
  - 「人との関係の中に生きる個」の視点
  - 発達の視点+ $\alpha$  (その人なりの幸せな生き方とは?)

参加者の事例を通して、クライアントの様々なあり方を理解し、その援助について考察いたします。

講師：久保 信代 先生

関西福祉科学大学、心理・教育相談センター専任講師

プロフィール:

国際基督教大学教養学部教育学科卒(専攻:心理学)

Lesley College Graduate School 修了

1992年～1998年、アメリカの自閉症児教育プログラムにて、幼児から成人までの支援に関わる。帰国後、その知見を基に臨床活動に従事。現在、発達障害児への治療教育、プレイセラピー、当事者や家族に対する臨床活動、教育関係者へのコンサルテーションやセミナー、発達障害児養育者へのペアレント・トレーニングを行っている。

🍒 日 時：2012年4月8日(日)10:00～16:00(受付9:45～)

🍒 場 所：ホテル「ホップイン」アミング (JR 尼崎駅から直結)

🍒 対 象：臨床心理士 および 教育,医療,福祉等の関係者

🍒 定 員：16名 (先着順)

🍒 参加費：8,000円、学生6,000円

※研修ポイント：日本臨床心理士資格認定協会の研修ポイントを申請予定。(2ポイント)

お申込み

[office1102@saitokodomo.com](mailto:office1102@saitokodomo.com)

名前・所属・メールアドレスをご記入の上、上記アドレスまでお申し込みください。

詳しくは下記ホームページに掲載予定

<http://saitokodomo.com>

大阪彩都心理センター

講師: 久保先生のコメント

自閉症児を目の前にするとき、対応する自分との“違い”に直面します。しかしそれは、“同じであること”、つまり自閉症である前に一人の人間であるという自明の事実から離れてしまう危険性を孕んでいます。ここで再び尊厳をもったひとりの存在という原点に立ちかえり、自閉症児への援助のあり方について考察を行います。自閉症児に出逢うセラピストは特に、内的世界と外的世界を繋ぐ橋渡しとしての機能を持つことが重要です。そのためには、彼らの内的世界を共感的に受容し、彼らが困難と共存しながらも自らの力で伸びようとする過程を支え、彼らが外界へと繋がっていく過程に立ち合っていくという「関わり」が重要となるのです。前半では、どのような関係性に支えられ、どのような関わりによって自閉症児/者の成長、発達が促されていくかについて論じ、後半では、その援助のあり方について皆さんと共に考えてみたいと思います。(久保信代)

## アクセス



★所在地

〒661-0976

兵庫県尼崎市潮江1丁目4番1号

電話 06-6491-0002 (代表)

FAX 06-6491-8575